

## 「JENESYS2.0」

### 中国大学生訪日団第10陣

訪問日程 平成26年6月5日（木）～6月12日（木）

#### 1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第10陣計128名が、6月5日から6月12日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：朱丹（シュ・タン）中国日本友好協会副秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、大学訪問など交流の場を通じて、日本の大学生や市民との親睦を深めたほか、日本の政治・経済・科学技術・社会・歴史・文化等が体感できるような施設や、地方都市の訪問を通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

#### 2 日程

##### 6月5日（木）

羽田空港及び成田国際空港より入国、浅草寺・お台場見学、オリエンテーション

##### 6月6日（金）

和食と日本文化に関する講義、上智大学訪問・交流、東京タワー見学、歓迎会

##### 6月7日（土）

国会議事堂視察、皇居二重橋見学、京都府へ移動、和風旅館での日本文化体験

##### 6月8日（日）

金閣寺見学、日本文化体験（京友禅染め）、嵐山・天龍寺見学、大阪府へ移動

##### 6月9日（月）

造幣局視察、大阪城見学、大阪大学訪問・交流、和歌山県へ移動

##### 6月10日（火）

和歌山県の世界遺産保護に関する講義、円月島・千畳敷・三段壁見学、ホームステイ（和歌山県白浜町）

##### 6月11日（水）

ホームステイ（和歌山県白浜町）、大阪府へ移動、商業施設視察、歓送報告会

##### 6月12日（木）

関西国際空港より帰国

### 3 写真

|   |  |
|---|--|
|    |    |
| <p>6月5日 浅草寺 見学（東京都）</p>   | <p>6月5日 お台場 見学（東京都）</p>  |
| <p>6月5日 参观浅草寺（东京都）</p>  | <p>6月5日 参观台场（东京都）</p>  |
|   |   |
| <p>6月6日<br/>原田信男 国士館大学 21世紀アジア学部<br/>教授による和食と日本文化に関する講義<br/>（東京都）</p>               | <p>6月6日 上智大学訪問・交流（東京都）</p>   |
| <p>6月6日<br/>国士館大学 21世紀アジア学部教授原田信男<br/>的《“和食”与日本文化》讲座<br/>（东京都）</p>                  | <p>6月6日 在上智大学访问交流（东京都）</p>   |
|  |  |
| <p>6月6日 上智大学訪問・交流（東京都）</p>  | <p>6月6日 東京タワー見学（東京都）</p>   |
| <p>6月6日 在上智大学访问交流（东京都）</p>  | <p>6月6日 参观东京塔（东京都）</p>   |

|   |  |
|---|--|
|    |    |
| <p>6月6日 歓迎会<br/>河上淳一 外務省アジア大洋州局アジア<br/>青少年交流室長の歓迎の挨拶（東京都）</p>                       | <p>6月6日 歓迎会<br/>日本の大学生との交流（東京都）</p>  |
| <p>6月6日 欢迎会<br/>河上淳一外務省亚洲大洋洲局亚洲青少年<br/>交流室长致欢迎辞(东京都)</p>                            | <p>6月6日 欢迎会<br/>与日本大学生进行交流（东京都）</p>  |
|   |   |
| <p>6月7日 国会議事堂 視察（東京都）</p>   | <p>6月7日 皇居二重橋 見学（東京都）</p>  |
| <p>6月7日 考察国会议事堂（东京都）</p>  | <p>6月7日 参观皇居二重桥（东京都）</p>   |
|  |  |
| <p>6月8日 京友禅染め体験（京都府）</p>  | <p>6月8日 金閣寺見学（京都府）</p>   |
| <p>6月8日 体験日本传统印染工艺：京友禅<br/>（京都府）</p>  | <p>6月8日 参观金閣寺（京都府）</p>   |

|   |  |
|---|--|
|    |    |
| <p>6月8日 天龍寺見学（京都府）</p>  | <p>6月9日 造幣局視察（大阪府）</p>   |
| <p>6月8日 参观天龙寺（京都府）</p>  | <p>6月9日 考察造币局（大阪府）</p>   |
|   |   |
| <p>6月9日 大阪城見学（大阪府）</p>  | <p>6月9日 大阪大学訪問・交流（大阪府）</p>   |
| <p>6月9日 参观大阪城（大阪府）</p>  | <p>6月9日 在大阪大学访问交流（大阪府）</p>   |
|  |  |
| <p>6月9日 大阪大学訪問・交流（大阪府）</p>  | <p>6月10日<br/>和歌山県の世界遺産保護に関する講義<br/>（和歌山県）</p>  |
| <p>6月9日 在大阪大学访问交流（大阪府）</p>  | <p>6月10日<br/>和歌山県政府的《关于世界遗产保护的<br/>相关措施》讲座<br/>（和歌山县）</p>                            |

|   |  |
|---|--|
|    |    |
| <p>6月10日 千畳敷 見学（和歌山県）</p>   | <p>6月10日 三段壁 見学（和歌山県）</p>  |
| <p>6月10日 参观千叠敷（和歌山县）</p>  | <p>6月10日 参观三段壁（和歌山县）</p>   |
|   |   |
| <p>6月10日 白浜町ホームステイ 入村式<br/>（和歌山県）</p>   | <p>6月11日 白浜町ホームステイ 離村式<br/>（和歌山県）</p>  |
| <p>6月10日 白浜町家庭寄宿 入村儀式<br/>（和歌山县）</p>  | <p>6月10日 白浜町家庭寄宿 离村儀式<br/>（和歌山县）</p>   |
|  |  |
| <p>6月11日 歓送報告会<br/>朱丹団長の挨拶（大阪府）</p>   | <p>6月11日 歓送報告会<br/>訪日成果報告（大阪府）</p>   |
| <p>6月11日 欢送报告会<br/>朱丹团长致辞（大阪府）</p>  | <p>6月11日 欢送报告会<br/>团员汇报访日成果（大阪府）</p>   |

#### 4 参加者の感想（抜粋）

○ 日本訪問中、一番印象深かったのは和歌山県でのホームステイだ。

静かな山村と穏やかで優しいお年寄りがとても印象的だった。お爺さんお婆さんとのおしゃべりの中で、私はこの地域のさまざまな現状を知った。例えば、日本の少子化問題がここでは特に突出していることだ。1年生から6年生まで合わせても学生はたった6人しかおらず、先生は2人だけ、しかもこの2人の先生がすべての教科を受け持っていると聞いて、本当に驚いた。中国の留守児童問題とは違い、ここでは取り残されているのはお年寄りだ。若い世代は皆都会へ働きに出て、近代的な生活を謳歌しているのだ。

もちろん他にもいろいろ勉強になった。和歌山県の世界文化遺産保護に関する講義では、日本人の文化遺産を大切に作る姿勢と、その保護に対する考え方が強く心に響いた。原始の趣を残し、どんなに手順が煩雑であっても昔のやり方に一番近い方法で修復し、守っていく。この考え方は目から鱗だった。中国ではおそらく、多くの人工的景観が文化遺産の魅力を喪失させてしまっている。

私は、周りの友人たちに本当の日本の姿を伝えようと思う。敵意のない、国民が友好的で善良な日本を。

○ 今回の訪問に参加できてとても光栄に思う。本当に良い勉強になった。日本での最初の訪問地、東京の第一印象は、道路が素晴らしく清潔なことだった。日本の政治・経済・文化の中心として、これはとても貴重なことだ。その後いくつかの都市を訪れ、この印象は更に深まった。道路・商店・トイレ、どこをとってもすべてが清潔で美しく、人に優しい造りになっていた。他にも印象的だったのは、日本のサービス業界の人々が、とても親切で礼儀正しく、真摯に仕事に取り組んでいたことだ。行く先々で気持ちの良いサービスを受け、とても感謝している。日本はどの都市にもそれぞれ趣がある。厳格な東京、歴史ある京都、賑やかな大阪、美しい和歌山、どの都市もそれぞれ印象深かったが、共通していたのは、そこで暮らす日本人が、礼儀を重んじ生活を追求していたことだ。一般家庭へのホームステイで、日本人の生活態度について更に発見をした。真面目に働き、たえず自身の生活をプロデュースしているのだ。ホストファミリーのお爺さんはかなりの歳だったが、まだ仕事を続けていたし、お婆さんは自分で車を運転し、料理を作り、絵を描き、生き生きと生活を楽しんでいて、私はとても感動した。

帰国したら、日本人がとても友好的だったことや、日本に学ぶべき点を伝え、周りの人々の日本に対する誤った見方や先入観を変えたいと思う。私と同じく日本語を学ぶ学生たちにも、日本の本当の生活を伝え、彼らの疑問に答えたいと思う。今回の活動で、私は自ら体験してみて初めて本当に他の文化や生活を理解することができるかと実感した。この貴重な体験を生かし、周りの人々の日本に対する誤解や、日本人の中国に対する誤解を解くことができればと思う。微力ながら自分ができることをして変えていきたい。

○ 今回の訪日に参加できたことは、一生の思い出になると思う。中でも一番印象に残っているのは、日本では普通なら気付かないような所にまで工夫が凝らされていることだ。

例えば、①エレベーター内の側面に階数を示す数字があって、上を見なくても何階に着いたかが分かるようになっている。②文化遺産の趣を守るために、例えば橋を修復する時には木を用い、より丈夫であっても鉄は使わない。③階段がある場所には、つまずいて転ばないように、標語が貼られているかライト等で目立つようにして注意喚起がなされている。階段と階段が繋がっている場所には、滑って転ばないように、地面に突起が設けられている。④京都では、古都の風情を守るために、100mを超える建物やネオンサインが禁止されている。⑤11日の歓送報告会では、訪日中に誕生日を迎えた4人の学生のために、特別にバースデーケーキと記念品が用意されていた。このような細かい工夫は、日本人にとっては当たり前ののだろうが、私たち外国人にとってはとても感動的だ。こうした小さな感動を伝え、家族や友達に日本と日本人について、より具体的に知ってほしいと思う。

他にも、私は日本人の間には特別な連帯感があると感じた。仲が良くてまるで一つの家族のようなのだ。例えば、信号のない横断歩道で道を渡ろうとしている人がいると、ドライバーは緩やかに車を止め、歩行者に道を渡るようサインをだす。一つの建物に2軒の土産物屋が入っている場所のこと、私は1軒である物を買って、もう1軒でもまた別の物を買おうとした。その2種類の商品は実はどちらの店にもあった。すると2軒目の店の店主は、そのまま私を1軒目の店へ連れて行き、そこでお金を払うよう勧めたのだ。私はこうした細かい具体例を挙げて、家族や友達に今まで知ら

なかった日本の一面を伝え、中日の友好を促したい。

○ 印象深かった三つのこと。

①京都での友禅染体験。自らハンカチを染めてみて、染色の魅力を知り、伝統工芸に対する理解が深まった。そして、染色をもっと広めたいと思った。

②ホームステイの時、海へ出て漁をしたこと。内陸育ちの私は、今回生まれて初めて海を見た。しかもラッキーなことに、漁船に乗せてもらい太平洋に出ることができた。ホストファミリーのお爺さんはとても優しく親切で、私たちがより海を実感できるようにと、わざわざ漁の道具を片付けスピードを上げて太平洋に繰り出してくれた。大海原の波、海岸の美しさ、すべてが感動的だった。激しい波飛沫や、果てしなく続く海面を眺めていると、気分が晴れて悩みが吹き飛んだ。一生忘れられない思い出になるだろう。こんな素敵な経験をさせてくれたお爺さんに感謝したい。

③歓送報告会での誕生祝い。私たちだけでなく、誕生日を迎えた本人たちにとっても思いがけない喜びだったに違いない。日本に着いてすぐに始まったお水と軽食のサービスから、東京のホテルが遠い大阪まで忘れ物を送ってきてくれたことまで、すべてのことに感動した。それは常に嬉しい驚きだった。私は、日本人のきめ細やかな仕事ぶりに感服した。

帰国したら、自分が身をもって体験したすべてのことを友達や家族に伝えたい。彼らに本当の日本と日本人を知ってもらい、民間の友好交流を促したい。

○ 浅草・東京タワー・温泉・金閣寺等、すべての体験がとても印象的だった。上智大学や大阪大学の訪問では、日本の生活についてより深く知ることができた。中でも一番印象に残っているのはホームステイだ。たった一晚という短い時間だったが、お父さんお母さんの期待と心遣いを十分に感じた。実は最初は、彼らがなぜ私たち中国人をホームステイさせ、しかも本当の子供のように接してくれるのか、ずっと不思議だった。そして分かった。日本人の多くは、私たちと同じく中日の友好を願っていて、自分の家庭の温かさを通じて、日本独自の文化を伝えたいと思っているのだ。私は心からこの場所が好きになった。そして、中日の結びつきをもっと深めたいと思った。

実は、訪日期間中、毎日交流サイトに写真をアップしていた。美しい料理から、自然と人との調和、古代文化と遺産保護への配慮、1輪の花、1本の木、1人の人を映したもので、どれもたくさんの人から「いいね！」をもらった。日本に対する興味を引くことができるととても嬉しかった。帰国したら頑張って旅行記を書いてみようと思う。衣・食・住等いくつかの面から日本を紹介し、周りの人々に平和で温かな日本の魅力を感じてもらい、共に中日の友好を促していきたい。

今回のチャンスを得ることができて、とてもラッキーだった。本当に感動し感謝している。次はもっと努力したいと思う。ありがとう。

○ 今回の訪問で、日本に対する理解がより深まった。東京・京都・大阪・和歌山等を訪れ、美しい景色はもちろん、その土地の人々の情にも触れることができた。皆とても温かく迎えてくれた。特に和歌山の白浜町では、日本の家庭にホームステイし、一緒に日本料理を作ったり、蛍を見に行ったり、海へ出かけたりして、日本人の友情をより深く感じることができた。上智大学や大阪大学では、日本の学生と交流し、彼らの勉強や生活について知ることができた。上智大学も大阪大学もとても良い大学だった。学習や生活の環境も素晴らしかった。

私たちは講義も受けた。日本の文化遺産保護の方法は、とても素晴らしいと思った。帰国したら是非クラスメイトに話したいと思う。和食に関する講義では、中国と日本の繋がりを知ることができた。両国には文化をはじめ多くの共通点がある。両国の関係が友好的に発展し、国民同士の友情が更に深まってほしいと思う。そのためにも、今回のような大学生の訪日プログラムがより多く実施されることを望む。

○ 一番印象深かったのは、皆も言うように、日本では都市でも農村でも、道路がたとえ狭くてもとても清潔なことだ。緑地帯も清潔だ。もう一つは、日本人の生活リズムの速さだ。特に東京では、歩道が狭いせいかもしれないが、人々は横に並んで歩くことはせず、足早に歩いていた。上智大学では、私が漢字を書くのを見た学生がとても驚いた表情をした。聞けば、彼らは漢字より仮名をよく使うとのことだった。和歌山でホームステイをした時にこの話をすると、日本人はいざ書こうと

して漢字が出てこないことも多いと言っていた。日本の若者も、難しいからと漢字はあまり書きたがらないとのことだった。それから、日本人は皆照れ屋だと聞いていたが、上智大学や大阪大学の学生との交流では、そういう人は少数で、大半は明るく活発で飾り気のない人たちだった。特にホストファミリーのお爺さんは70歳を過ぎてもとても元気で、毎日のように漁に出ていた。そして、賞をとったことや取材を受けたこと等を誇らしそうに話してくれて、私たちとの交流にも積極的だった。

帰国したら、日本人がとても友好的だったことや、日本の進んだ技術について、周りの人々に話したいと思う。造幣局を見学した時、工場の重労働の大部分にはロボットが使われていた。中国の工場の多くはまだそのレベルには達していない。また、日本人は決して中国人を嫌ってはおらず、どちらかといえば好きだということ。これは両国に友好都市がたくさんあることから見て取れる。

○ 8日間の短い旅だったが、目新しい物をたくさん見て、初めての体験をたくさんして、良い思い出がたくさんできた。中でも3つのことが印象的だった。まず、日本のサービス精神だ。8日間の旅の間、ホテルで過ごす時間も多かったのだが、スタッフの思いやり溢れるサービスや心からの笑顔、親切な対応や行き届いたもてなしに、とても感動した。次に、日本人に対する理解が深まった。日本人は決して冷淡ではなく、とても親切で友好的だった。大阪での最初の夜、ホテルからかなり離れた場所まで買い物に出かけた。日本は初めてだったので電車の乗り方もよく分からず、地下鉄の駅で見知らぬ人に助けを求めた。教えてもらおうと思って声をかけたのだが、その人は親切にも自分のことは後回しにして、私が切符を買うのを手伝い、行き方も教えてくれた。快く人助けをする精神にとっても感動した。そして最後は、一番印象深かったホームステイだ。和歌山県の白浜町でのホームステイで、私は1人のお婆さんと知り合った。彼女は愛と責任感に溢れた人だった。手作りのお菓子で私たちをもてなし、たくさんの生活の知恵を教えてくれた。また、さまざまな社会活動に参加して、他人を助けていた。私は彼女にとっても啓発された。彼女の夫は病気で亡くなっていたが、生前病院にとってもお世話になった恩返しにと、週に2回病院でボランティアをしていた。更に、地域のボランティア活動にも参加し、外国人をもてなす等さまざまな活動をしていた。彼女の部屋には、世界各地から届いた感謝の葉書やプレゼントが溢れていた。彼女の生き方に、私は心を揺さぶられ、大いに啓発された。

○ 今回の訪問はたったの8日間だったが、とても充実していた。本では学べないことをたくさん知ることができ、身をもって日本の文化や歴史を感じることもできた。浅草寺や国会議事堂、皇居の参観、大学生との交流等さまざまな有意義な活動に参加した。中でも一番印象的だったのは、和歌山県でのホームステイだ。訪日活動に参加する前は、日本は厳格で冷淡な国だと思っていたが、日本人はとても温かく親切で、困っていると必ず救いの手を差し伸べてくれた。特にホームステイの時、一番良い物はすべて私たちのためという、ホストファミリーの心からのもてなしに、とても感動した。今回の活動を通じて、日本について理解が深まり、新たな印象をたくさん持った。日本が礼儀をととても重んじる国であること。スタッフをはじめ出会った多くの日本人が、皆とても友好的で温かく接してくれたこと。初めて見た海も、初めて歩いた竹林も、自然の風景がとても美しかったこと。金閣寺等歴史的な意義のある建築も素晴らしかったこと。日本の伝統的な染色工芸を体験したこと。これらすべてが、それぞれ違った印象を残してくれた。私は日本語をしっかりとマスターしようと決めた。中日の友好のために少しでも力になれるように。

○ 今回の8日間の訪問は、たくさんの思い出を残してくれた。特に印象的だったことは二つある。一つは、日本の発達した科学技術と一流の技術レベル、効率の良さだ。本当に驚き感服した。もう一つは、日本の伝統工芸だ。1泊のホームステイと手工芸の体験で、日本人の手技の巧みさを知り、伝統工芸技術のレベルの高さが強く印象に残った。

帰国したら、日本で見聞きしたすべての興味深い事柄を、クラスメイトや先生に伝えようと思う。日本の先端技術について、日本人の温かいもてなしについて、伝統工芸の技術レベルの高さについて。特に忘れられないホームステイの晩のお爺さんお婆さんのもてなしについて。将来チャンスがあればきっとまた日本に来て交流に参加し、友好の懸け橋になりたい。

○ 今回の訪日活動で、日本に対する印象が更に深まった。中日の政府の関係は緊迫しているが、国民の交流には少しも影を落としていない。日本人は本当に親切で、きめ細かく私たちの面倒を見てくれた。日程の内容も素晴らしかった。

上智大学や大阪大学の学生との交流では、日本の学生の日常生活や勉強の仕方について知ることができた。中国式の丸暗記法とは違って、日本式の勉強法はもっと柔軟で、特に研究を重視していた。他にも、和歌山県での辻林浩先生の「世界文化遺産」に関する講義に、深く感銘を受けた。日本人は自然保護をとっても重視していて、道を修復するにしても、堤防を築くにしても、すべて自然を基本としていた。この点は中国政府も見習う価値があると思う。今回、白浜町で老夫婦の家にホームステイをした。私たちは一緒にジャガイモを掘り、茄子を取り、晩御飯を作り、おしゃべりをした。本当の家族になったように感じた。お爺さんは私たちに UNO というカードゲームも教えてくれた。とても面白かったので、帰国したら友達にも教えてあげたいと思う。

それからもう一つ、私にとって特別な出来事があった。実は、今日(6月11日)が自分の誕生日だということを、私は本当にすっかり忘れていた。だから司会者の、日中友好会館が特別に私たちにバースデーケーキを用意しているという言葉聞いた時には、本当に驚いた。ステージに上がった私は、その心遣いにとっても感激して涙が止まらなくなってしまった。私たち4人のために、一生忘れられない23歳のバースデーケーキとプレゼントを準備してくれた日中友好会館に、心から感謝したい。

日本人は私たちが思っていたような話嫌いな人々ではない。実際の日本人は本当に親切で、どこへ行っても家に帰ったような温かい気持ちにさせてくれた。チャンスがあれば是非また日本に来て、日本の風土や人の情に触れたい。そして、もっと多くの中国人に日本に旅行や留学、仕事に来てほしい。

○ 今回の訪問で一番印象に残ったのは、ホームステイだ。実を言うと行く前までは、共通の話題がなかったら、言葉が通じなかったら、生活習慣の違いから日本人に悪い印象を与えてしまったらと、とても心配だった。でも、行ってみたらすべてがとても上手くいった。ホストファミリー夫妻はとても親切にしてくれたし、自分たちの子供や孫の話等、生活の小さな出来事について積極的に話してくれた。また、中国のさまざまな事柄について私たちに質問もしてくれた。食卓を囲んでの会話はとても楽しかった。ホストファミリーの家で、私たちは目新しい体験をたくさんした。野菜や果物を収穫したり、夜の川へ蛍を見に行ったり、野菜のお好み焼を作ったり、日本のカードゲームで遊んだり、とても充実した楽しい時間を過ごした。別れの時、多くの日本人が名残を惜しんで涙を流し、中国の学生がバスのガラス窓越しに手を振り続けていた光景は、本当に感動的だった。私たちは連絡先を交換し合い、近いうちに必ずまた集まって、お婆さんの作った美味しい日本のご飯と一緒に食べる約束をした。

今回のホームステイで、私は日本人が親切で友好的なことを実感し、日本の一般的な農家の生活がいかに豊かであるかも知ることができた。家電製品はすべて揃い、ほぼ1人に1台軽自動車を持ち、生活様式は和洋折衷で、物質的にも精神的にもとても満ち足りていた。緑溢れる山と清らかな水に囲まれた、静かで豊かな農家の暮らしは、私の憧れだ。

帰国したら必ず、日本人がとても友好的だったことを周りの友達やクラスメイトに伝え、彼らに本当の日本の生活を知ってもらおうと思う。

○ 今回の訪問で印象深かった事は三つあった。白浜町でのホームステイ、京都の金閣寺、そして世界遺産保護の講義だ。

白浜町のホームステイでは、言葉の問題もあって、お爺さんお婆さんと話をするのは容易ではなかったが、自分の家にいる時のように過ごすことができた。それは、お爺さんお婆さんが私たちが家族のように思ってくれていることが伝わってきたからだ。一番良い物で私たちをもてなし、一緒におしゃべりをし、日本料理の作り方も教えてくれた。私たちの生活習慣の違いも受け入れてくれて、とても感動した。

京都の金閣寺では、短い時間だったが、日本が文化遺産の保護を重視していることを実感した。なぜなら、私は前にも京都に来たことがあって、その時にも金閣寺に来ていたからだ。そこにあるすべてが1年前と全く同じだった。水は依然として清らかで、山は変わらず美しく、金閣寺は静かにそこに佇んでいた。各地から訪れる観光客の影響を全く受けていなかった。

世界遺産保護の講義では、日本が世界遺産の保護についてさまざまな方法を模索し、実施していること、そしてそれを国民に伝えていることを知った。文化遺産がもたらす精神的な喜びを次の世代に受け継いでいこうとする姿勢に、とても感動した。

帰国したら、日本人が中国からの来訪者にとっても友好的だったこと、日本の環境保護管理がとても先進的であること、そして、日本の有名観光地の状況や、実施されている保護策について、周り

の人々に紹介したいと思う。

○ 初めて日本に来た時、たぶん誰でもこれまで本の上でしか知らなかったことが、生き生きとした現実になるのを感じるだろう。私たちは、この国のトイレと道路の清潔さ、サービススタッフの友好的な態度、整然とした社会秩序に、本当に驚いた。日本の大学生との交流を通じて、日本の同年代の人々の日常生活や趣味、考え方等を知った。毎日が充実していて楽しかった。最も印象的だったことは、やはり大阪で電車を間違えた時のことだろう。ホテルに帰る時に、私たちは電車に乗ったのだが、買う切符を間違えてしまった。それを知った駅員は、すぐに私たちが乗り換える駅と、最終目的地の駅に連絡してくれた。彼は、私たちが聞き取れなかったり迷子になったりしないように、とても真面目に、何度も何度も繰り返しどうすればよいか説明してくれた。そして私たちが無事電車に乗ったのを見届けてから、ようやくその場を離れた。私はとても感動した。日本のサービススタッフは皆とても親切で、相手が本当に理解したことを見届けるまで、その場を決して離れない。礼節の国として中国も日本に学ぶべきだと思う。

この8日間の旅は、とても良い勉強になったし、中国と日本の新しい友達がたくさんできた。見学や交流、ホームステイを通じて、日本の伝統文化や日常生活、若者の様子について新しい発見があった。日本の近代科学技術や文化は、とても発達していて、学ぶ価値があるし、生活面の環境保護や省エネ、節約等にも学ぶべきだ。中日友好協会と日中友好会館が、今後も積極的にこのようなプログラムを実施し、交流の機会を増やしてくれることを願う。大学生として私たちも微力ながらできることをしていきたい。

○ 日本に対して、私たちはまず自分の態度を正すべきだと思う。両国はずっと昔から互いに交流を続けてきた。その間には戦争や意見の食い違いもあったし、現在も島の問題がある。しかし、私たち大学生にとっては、こうしたすべてのことをいかに正確に認識するかがとても重要だ。今回の旅を通して、私は日本の純朴な国民性と美味しい日本料理、伝統ある日本文化について、更に深く知ることができた。今回訪日した大学生は、積極的に日本の良い所を伝えるべきだと思う。日本と中国は、今もそして今後も、ずっと友好協力の状態にある。私たちは今、日本がこれまで経験してきた今日を過ごしているのだ。だから、両国が共に発展していくために、力を尽くす必要がある。

日本の今日は私たちの祖国の明日だ。今回の活動で見聞きしたことを周りのクラスメイトに伝え、この感動を力に、努力して学び、自分と祖国の将来のためにできることをしたい。

○ 一番印象的だったのは、和歌山でのホームステイだ。あの山と水の織りなす景色の素晴らしさ。でももっと忘れられないのは、純朴な人々、自然に寄り添う生活、人と人との密接な繋がりだ。私がホームステイした家には、古稀を迎えた2人のお年寄りがいた。彼らは年をとってはいたがとても元気だった。私は、彼らの家の和式の部屋で、一緒に日本料理を作り、テレビを見、トランプで遊び、彼らの話す方言に耳を傾けた。たった24時間の短い間だったが、本では学べない日本人の本当の生活を体験することができた。そして、彼らと友情を築くこともできた。これが日本語で言う「絆」かもしれない。

帰国したら、日本は清潔でとても発展していると、周りの人々に伝えようと思う。そして、日本人は想像していたような冷淡な人々ではなく、私たちと同じく情に厚い人々だったと伝えたい。これまで、両国の関係には互いの理解不足から度々食い違いが生じてきた。私は、互いに深く理解し合えば、関係は必ず平和友好に向かうと信じている。

○ 今回の訪問を通して最も印象的だったことは、日本の高齢化の現状だ。ホテルのスタッフから道行く人まで、老人の占める割合の多さをはっきりと感じた。しかし、白髪まじりの老人でも行動はとても機敏だった。これは、日本人の長寿と関係があるのではないかと思う。退職の年齢になっても、彼らはまだそれぞれの職場で活躍し、社会に貢献している。

周りの人々に伝えたいことは二つある。一つは、一般の日本人や若者は、中国に対してとても友好的だということだ。彼らは親切で話好きで、中日が代々友好であることを心から願っている。私は、周りの人々にも、かつて戦争をした日本という国に対して友好的になり、将来を見据えて、積極的に日本人と交流してほしいと思う。

もう一つは、日本では都市と農村の格差がほとんどないということだ。和歌山の山村の家でも、オートメーション化がとても進んでいて、生活の質は東京や大阪等の大都市と変わらない。この点では、中国はまだまだ努力が必要だ。

○ 今回の訪問では、7日間の短い時間の中で、東京・大阪・京都・和歌山等を訪問し、日本の風俗や人の情に直接触れることができた。これは、自身の日本語学習にとって大きな助けになると思う。これまでは、卒業後の進路について、国内企業への就職を主に考えていたが、今回の訪問で日本の美しさや文化等に深く感動し、両国の友好に繋がるような、日本を訪れるチャンスが多い仕事に就きたいと思うようになった。

日本での数日間で最も印象深かったのは、ホームステイだ。まず驚いたのは、日本の農村の環境だ。何時間も山道を走ってようやく辿り着くような山深い地区の農家でも、それぞれに美しい日本式の庭があり、最先端の家庭用設備を備えていた。日本経済の発達レベルと文化の普及レベルを伺い知ることができた。

帰国したら、素晴らしい日本、大好きな日本を、クラスメイトに伝えたいと思う。南紀白浜の真っ白な砂浜と、道で小鹿を見かけるような自然環境、親切な大阪の人々、礼儀正しい東京の人々…今は早くクラスメイトたちに話したくて待ちきれない。

○ 私は日本語の勉強を始めて7年になる。

今回が初めての日本だった。

私の専門は通訳だ。先生からは、通訳は一種のサービス業で、サービス精神が必要だと、ずっと言われ続けてきた。日本に来る前までは、サービス精神とは、要するに質の高い仕事をすればそれでいいのだろうくらいに考えていた。しかし今回日本に来て、本当のサービス精神が何であるかを思い知った。

終始絶やすことのない笑顔、極めて丁寧なお辞儀、穏やかで優雅な敬語…滞在中に嫌な思いをしたことは一度もなかった。スタッフは終始とても楽しそうに仕事をしていた。サービスを受ける側の私までが、自然と楽しい気分になり、人生は素晴らしいと感じたほどだ。

これが日本人の言うところの、「おもてなし」なのだろう！

日本語を勉強している私たちは、将来日本人と交流する機会も多だろう。今回の活動は、私たちの今後の仕事や生活にとって、とても重要な意義があった。

とにかく私は、より多くの中国の友人に日本の「おもてなし」を知ってもらいたい。そして、今後の仕事や生活の中で、向上心と、笑顔と、仕事を楽しみ生活を愛する心を持ち続けていきたい。

ありがとう、日本！

○ 来日前、専門の授業の中でも「少子高齢化」という言葉はよく出てきていた。今回和歌山の白浜町でホームステイをし、この「少子高齢化」の概念を実際に体験した。白浜町は自然環境の素晴らしい美しい山村だった。しかし、住民は大部分が一人暮らしの老人で、子供たちはほとんどが東京や大阪等の大都市で生活している。私がホームステイした家の近くには小学校があったが、子供が少なく、7、8年前に廃校になっていた。

最も印象深かったのも「少子高齢化」だ。この言葉が意味するのは、生産活動の停止、社会活動の停滞だと思っていた。もちろん生産力の低下は否めないが、白浜町の「少子高齢化」現象の中に、私は日本の老人特有の気概を見た。ホームステイした家の2人の老人は、共に70歳を超えていたが、とても健康だった。2人で仲良く2階建ての家に暮らし、200平米ほどの敷地はきちんと整えられ、庭にはたくさんの花が植えられていた。2人は地域のゲートボールクラブにも所属していて、試合で貰ったというさまざまな賞状が家の中に飾られていた。小さな山村でも、2人はとても質の高い生活を送っていた。

この2人の老人と同年代の自分の祖父母の家はと言えば、全く逆で、庭の花は萎れ、家中に老人特有の空気が漂い、社会活動などとてもないといった有様だ。

私は、この差は個人の概念の問題だけではなく、教育段階での人生観の確立と社会福祉の充実の問題だと思う。そして「地域」という概念が、中国ではまだ思想の段階であるのに対し、日本では、とりわけ小さな町では、既に人々の暮らしに深く浸透し、近隣の住民同士の生活を繋ぐために欠かせないものになっていることが大きいと思う。

現在「少子高齢化」問題は中国でも広く存在している。この問題に対処していくために、日本に学ぶところはとても多い。